

令和7年度高病原性鳥インフルエンザ対策の取組状況について

1 要旨・目的

令和7年度高病原性鳥インフルエンザ発生予防対策及びまん延防止対策の実施状況を報告する。

2 現状・背景

国は、令和6年度シーズンの愛知県や千葉県での連続発生の疫学調査を踏まえ、新しく「鳥インフルエンザ対策パッケージ」とまとめ、地域の連続発生に的確に対処するための「大臣指定地域」を令和8年1月に指定するほか、大規模経営への分割管理検討の義務付けや国によるワクチン接種の導入検討を開始することとした。

県は、令和6年度の発生予防及びまん延防止対策を振り返るとともに、この国的新しい考え方も踏まえた発生予防及びまん延防止対策に取り組んでいる。

3 令和7年度発生予防対策強化の取組

(1) 県内発生農場の対策実例研修会（5月1日）

参加：110名（県内養鶏農場41名）

(2) 県内養鶏場の令和6年度対策自己評価の実施（5月）

各農場の弱点のあぶり出し（改善点の明確化）

(3) 県内養鶏場の個別対策強化（6月～9月）

分割管理、作業管理、衛生管理、野鳥管理、農場清掃、優良事例共有等

(4) 飼養衛生の基本行動研修会（7月～10月）

従業員の衛生意識の強化及び経営参画意識の醸成

(5) 令和7年度高病原性鳥インフルエンザ防疫セミナー（9月17日）

参加：89名（県内養鶏農場経営者・責任者53名）

(6) 消石灰配布・消毒計画の策定促進（9月～10月）

県内養鶏農場100戸（100羽以上飼養）

(7) 広島県防疫連絡会議（10月1日）

ア 目的

（ア）高病原性鳥インフルエンザ警戒期間（10月～5月）の重点取組確認

（イ）大臣指定地域（予定）の共有

イ 参加

46名（県内養鶏農場経営者・責任者18名、畜産関係団体等12名、県関係16名）

4 令和7年度まん延防止対策強化の取組

(1) 県域防疫演習（8月20日）

ア 目的

一般応援職員の作業理解及び本庁班員（サブリーダー）の作業理解

イ 内容

未経験者を中心とした実務演習

ウ 参加

124名（協定締結民間企業15名、県機関109名）



(2) リーダー（畜産）・サブリーダー（本庁、農林水産事務所・農業技術指導所等）実働演習（10月9日）

ア 目的

応援者への指示演習、情報伝達演習

イ 内容

（ア）新たな殺処分方法（捕鳥かご・コンテナ使用）の作業理解・安全管理

（イ）ウェアラブルカメラによる情報伝達

ウ 参加

44名



(3) 事案対策部及び現地対策部班員机上演習（10月～11月）

ア 目的

（ア）事案対策部（畜産課・農林水産総務課・農業基盤課・ため池農地防災担当）の作業・役割理解

（イ）現地対策部（各畜産事務所・地方機関）の作業・役割理解

イ 内容

（ア）畜産課・畜産事務所班員及び交代班員の作業の確認、引継ぎ演習

（イ）農林水産総務課班員の民間派遣連絡・動員管理システム作動演習

（ウ）埋却チーム（農業基盤課等）の体制・作業確認演習

(4) 動画視聴研修

一般応援職員及びサブリーダー（本庁、農林水産事務所・農業技術指導所等）の作業及び役割理解